

田植え祭は6月13日(土)に

認定NPO法人・鎌倉広町の森市民の会 広町田んぼの会

ことしの田植え祭は6月13日(土)9時から催します。06年に田んぼを復元して以来、10回目の田植えです。



=昨年6月14日

3歳児でも付添いといっしょに、植えることができます。ご家族、お知り合いを誘い合わせて、ご参加ください。

稲苗の生長が不揃いで、田植えの日取りを確定するのが遅れましたが、5月20日すぎから高温続きで、生長に加速がつき、田植えの見通しが立ちました。

田んぼに設けた苗床に4月18日、種籾を播いてから1か月半。うるち米サトジマン、もち米マンゲツモチの苗がたくましく育っています。その苗を、約7アールの田んぼ5枚に植えます。

小雨でも、決行します。大雨だったら、翌14日(日)の同じ時刻に延期します。決行か、延期かは、13日朝8時まで、市民の会ホームページ(「広町の森」で検索)でお知らせします。



昨秋から田起こし、田うない、代かき

田植えの準備は昨秋、稲刈りが終わって間もなく始めました。稲刈り跡に堆肥を撒き、3本刃のクワで掘り起こす「田起こし」をしました。堆肥と泥を混ぜつつ、地表下の泥を空気にさらし、泥の中のバクテリアの活動が活発になるのを促したのです。バクテリアは肥料分を分解して、稲の根が吸いやすくしてくれます。



冬の間、田んぼに水を引く水路を整備しました。4月からは、田んぼに浅く水を張り、やはり鍬で泥の塊を砕く「田うない」を続けています。うない終えた田んぼでは、金属製の熊手のようなレーキで、泥と水をお汁粉のように混ぜながら、表面を平らにします。

それらの作業を、6月初旬に終えて、田植え祭に参加する市民の皆さまを迎えます。



収穫米のおにぎりを用意します

初夏です。無農薬栽培の田んぼにはシュレーゲルアオガエルのオタマジャクシ、ドジョウ、ザリガニ、アメンボがいます。カルガモのペアが数メートルまで近づいて来ます。ツバメが巣作りに使う泥をくわえて行きます。周囲の林では、青葉が日ごとに深みを増しています。

お申し込みの必要はありません。緑地への順路は、「広町の森」でネット検索するか、湘南モノレール・西鎌倉駅改札口脇の掲示をご覧ください。4輪車用の駐車場はありません。

田んぼには、はだしで入っていただきます。汚れてもいい服装で、古タオル、ペットボトル1本程度の飲料のご持参を。ごみはお持ち帰りいただきたく、そのための袋をご用意ください。

植え終わったら、昨秋の収穫米で作ったおにぎりを提供します。缶ビール、お茶、ジュースを添え、参加費300円(高校生以下無料)です。

※ お問い合わせ：豊田(0467-23-3471)まで。